九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[081_03] 法政研究表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/1475343

出版情報：法政研究. 81 (3), 2014-12-17. 九州大学法政学会
バージョン：
権利関係：

植田　信廣　教授　著作目録

著書・翻訳書

碧海純一編『日本の社会と法』（共著）　放送大学教育振興会　一九八七年
　第三章～第五章を執筆

牧英正・藤原明久編『日本法制史』（共著）　青林書院　一九九三年
　第一部第二章第九節～第三章を執筆

『日本中世における犯罪、刑罰および刑事訴訟手続きに関する総合的研究』
（平成一〇～一二年度科学研究費補助金基盤研究（C）（研究代表者＝植田信廣）
　研究成果報告書）　二〇〇一年

武樹臣著／植田信廣訳『中国の伝統法文化』（翻訳）　九州大学出版会　二〇〇三年

『日本中世における裁判制度および裁判外紛争処理手続きに関する総合的研究』
（平成一三～一五年度科学研究費補助金基盤研究（C）（研究代表者＝植田信廣）
　研究成果報告書）　二〇〇四年

浅古弘・伊藤孝夫・植田信廣・神保文夫編『日本法制史』（共著）　青林書院　二〇一〇年
　第一部第二編第二章～第四章、第六章を執筆

『九州大学百年史』第4巻＝部局史編Ⅰ　第5編　法学府・法学部・法学研究院（法文学部）
（http://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/recordID/1462303?hit＝2&caller＝xc-search）
（冊子体は法政研究第八一巻四号として刊行）
第4章を執筆　九州大学　二〇一四年

論文

「鎌倉幕府の裁判における『不論理非』の論理をめぐって」（法制史研究二八号）　一九七九年
「中世前期の『無縁』について――日本における『自由と保護』の問題によせて」（国家学会雑誌第九六巻三・四号）　一九八三年
「『名字を籠める』という刑罰について――『大乗院寺社雑事記』を手がかりにして」（法政研究第五三巻一号）　一九八六年
「中世後期の奈良の盗人検断について――『大乗院寺社雑事記』を手がかりにして」（法政研究第五五巻二＝四号）　一九八九年
「「中国の法と社会」に関する断想」（『漢字圏諸国における法律用語の国際的比較研究（昭和六二～平成元年度国際学術研究）研究代表者＝近藤昭三）研究成果報告書』）　一九九〇年
「前近代的日本法」（中外法学一九九一年第三期）　一九九一年
「鎌倉幕府の〈検断〉に関する覚え書き（一）」（法政研究第五八巻四号）　一九九二年
「鎌倉幕府の〈検断〉に関する覚え書き（二）」（法政研究第五九巻一号）　一九九二年

「鎌倉幕府の殺害刃傷検断について」
（石井紫郎先生還暦記念論文集『罪と罰の法文化史』（東京大学出版会））　一九九五年
「日本伝統法律文化及其歴史背景」
（中外法学一九九六年第四期）　一九九六年
「(Kürzere Abhandlungen) Das Recht des „kenka ryoseibai“」
(Zeitschrift für Japanisches Recht, Vol.9 No.18)　二〇〇四年
「日本中世の喧嘩両成敗法について」
（法政研究七二巻二号）　二〇〇五年
「関于日本中世的〝喧嘩両成敗法〟」（何東訳）
（何勤華主編『全国外国法制史研究会学術叢書　多元的法律文化』（北京、法律出版社））　二〇〇七年
「討論（小路田泰直（司会）・折原浩・水林彪・雀部幸隆・植田信廣・松井克浩・小関素明・大久保徹也）」（小路田泰直ほか『比較歴史社会学へのいざない――マックス・ヴェーバーを知の交流点として』（勁草書房））　二〇〇九年
「日本関于法律相関文字之字形、字義研究的学術概況」（西英昭と共著）
（河北法学二〇一〇年第一〇期（総第二〇四期））　二〇一〇年

翻訳

「武樹臣著「歴史が予言する未来――中国法文化の全体精神及びマクロ的様式を論ず」
（法政研究第六〇巻一号）　一九九三年
「武樹臣著「中国の伝統的法文化の社会的成因」」
（法政研究第六二巻一号）　一九九五年
「倪正茂著「西洋政治哲学と中国近代社会の発展」」
（法政研究第六六巻一号）　一九九九年

「倪正茂著「比較法学研究の理論的諸問題について」」
（『アジア太平洋地域における法の役割』研究代表者＝吾郷真一・平成一〇～一二年度
科学研究費補助金研究成果報告書）　二〇〇一年

書評

「中世日本の法と国制をめぐる話題作　石井進「中世社会論」」（創文第一六五号）　一九七七年
「大山喬平「鎮西地頭の成敗権」」（法制史研究第二九号）　一九八〇年
「平山行三「和与続考――中世後期より近世に至る和解制度」」（法制史研究第三〇号）　一九八一年
「松尾剛次「中世非人に関する一考察――西大寺流による非人支配」」（法制史研究第三一号）　一九八二年
「松尾剛次「開発と中世非人――和泉国日根野村絵図をめぐって」」（法制史研究第三三号）　一九八四年
「網野善彦ほか『中世の罪と罰』」（日本歴史第四三八号）　一九八四年
「藤原良章「鎌倉幕府の庭中」」（法制史研究第三四号）　一九八五年
「笠松宏至『法と言葉の中世史』」（国家学会雑誌第九八巻五・六号）　一九八五年
「朝尾直弘ほか編『負担と贈与』（日本の社会史第4巻）」（週刊読書人第一六七三号）　一九八七年
「丹生谷哲一『検非違使――中世のけがれと権力』」（法制史研究第三七号）　一九八八年
「藤木久志『戦国の作法――村の紛争解決』」（法制史研究第三八号）　一九八九年
「新田一郎『日本中世の社会と法――国制史的変容』」（日本歴史第五八八号）　一九九七年
「辻本弘明『中世武家法の史的構造』」（法制史研究第五〇号）　二〇〇一年

「水林彪ほか編『法社会史』」（法制史研究第五二号）二〇〇三年
「清水克行『日本神判史――盟神探湯・湯起請・鉄火起請』」（法制史研究第六一号）二〇一二年
「畠山亮「戦国期における喧嘩規制法について――戦国期喧嘩両成敗法の再定位」」（法制史研究第六三号）二〇一四年

資料紹介

「東京大学法学部法制史資料室所蔵三鈷寺文書」（古文書研究一七＝一八号）一九八一年
「九大（法）保管の『民事判決原本』史料について」（九州大学大学史料室ニュース 第七号）一九九六年
「九大（法）保管の「民事判決原本」の史料的価値と保存・利用の現状――国立司法資料館と公開利用の早期実現に向けて――」（図書館情報（九州大学）第一八五号）一九九八年
「豆田区裁判所明治一一年三月三〇日裁判申渡書〈地所売渡破約事件〉」
「豆田区裁判所明治一四年五月二八日裁判言渡〈秣場差縺事件〉」
（林屋礼二・石井紫郎・青山善充編『図説 判決原本の遺産』）（信山社）一九九八年
「部門の概要――法制資料部門」（九州大学附属図書館付設記録資料館ニューズレター第一号）二〇〇七年

事項解説

「白状」「引付沙汰」
（国史大辞典編集委員会編『国史大辞典』第一一巻（吉川弘文館））　一九九〇年

「謀書・謀判」
（国史大辞典編集委員会編『国史大辞典』第一二巻（吉川弘文館））　一九九一年

「政所沙汰」「宮崎道三郎」「無縁」「村起請」「召文」「申詞」「問注」「問注記」「問注所」
「問注所沙汰」「問注所執事」「問注所執事代」「問状」
（国史大辞典編集委員会編『国史大辞典』第一三巻（吉川弘文館））　一九九二年

「湯起請」「連坐」
（国史大辞典編集委員会編『国史大辞典』第一四巻（吉川弘文館））　一九九三年

「アジール」「無縁所」
（『歴史学事典9　法と秩序』（弘文堂））　二〇〇三年

「池内義資『御成敗式目の研究』」「石井紫郎『日本国制史研究1』」
「新田一郎『日本中世の社会と法』」
（黒田日出男ほか編『日本史文献事典』（弘文堂））　二〇〇三年

その他

「新任教官五氏の自己紹介　中世社会の権力解明　植田信廣助教授」
（九州大学法学部同窓会報第九号）　一九八四年

「私の目に映った中国民主化運動――天安門事件前後の北京大学の表情を中心に」
（九大学報第一二九〇号）　一九九〇年

「教官活動報告書　植田信廣　日本法制史講座　助教授」
（『教官活動報告書』（九州大学法学部））　一九九一年
「花より競馬――私の場合」
（法政研究別冊　フォーラム第七号）　一九九一年
「中国語外書購読クラス訪中記　一、学生8人との北京旅行から帰って」
（法政研究別冊　フォーラム第八号）　一九九一年
「植田ゼミ　一〇年目の強気」
（法政研究別冊　フォーラム第一一号）　一九九三年
「中国旅行・留学と法」
（法学教室第一七三号）　一九九五年
「日本（中世）2（1995年の歴史学界・回顧と展望）」
（史学雑誌第一〇五巻五号）　一九九六年
「（シンポジウム）大学教育と法律実務家養成・第一回＝法曹養成の将来と大学／閉会の挨拶」
「（シンポジウム）大学教育と法律実務家養成・第二回＝法律実務家への期待と大学の果たすべき役割／閉会の挨拶」
「（シンポジウム）大学教育と法律実務家養成・第三回＝日米における大学・大学院教育と法律実務家養成／閉会の挨拶」
（法政研究第六六巻四号）　二〇〇〇年
「入学試験と大学」
（『低年次教育における九州大学史カリキュラム開発に関する研究』研究代表者＝新谷泰明・平成10～12年度九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト研究成果報告書）
（後に新谷恭明・折田悦郎編『大学とはなにか』（海鳥社）　二〇〇二年に収録）　二〇〇一年

「来年4月、ロー・スクール開設　実務に力を入れたカリキュラム
植田研究院長インタビュー」　（九州大学法学部同窓会報第二八号）　二〇〇三年
「（学部長メッセージ）80年の伝統を誇る法学・政治学の教育・研究の拠点
人間性・社会性・国際性・専門性に秀でた人材を養成」
（『全国大学法学部の総合的研究』（蛍雪時代二〇〇五年九月号第2付録））　二〇〇五年
「日本人の裁判への苦手意識はどのようにして生まれたのか」
「鎌倉時代の裁判はどのように行われていたのだろうか」
（夢ナビホームページ（http://yumenavi.info/））　二〇一二年

＊その他毎年の植田ゼミ論文集『×群（ばつぐん）』（平成四年度創刊号（一九九三年）より平成二六年度第二二号（二〇一五年三月刊行予定）まで）毎号に巻頭言あり